

## 令和5年度自己評価結果公表シート

### 一. 教育目標

心身共に健康で円満な人格形成の基盤を培い、創造性を養い、幼児の個性を伸ばすことを目標としています。

1. 自分で考え、工夫するたくましい子に育てます。(自立)
2. のびのびと自分を表現できる子に育てます。(個性)
3. 社会のルールを身に付けた協調性のある子に育てます。(社会性)
4. 優しく思いやる子に育てます。(心)

### 二. 本年度の重点目標

教育課程を2年間かけて大幅な改定を行った。ここ数年、行事の見直しや日々の保育の遊びが園児にとってどのような影響を与え、成長していくのかを話し合う中で、教育課程の中身を丁寧に見直す必要があった。教育目標として掲げている目標を念頭におきつつ、近年の園児の姿を鑑みて見直しを行うことによって、現在の課題を考えていく事、全教職員がクラスや学年の枠を超えてお互いに連携して物事を進めるようにする事を重点目標とした。

### 三. 自己評価結果

自己評価は段階評価とした。この評価結果は三学期末での評価である。5点満点であり評価点は教職員の平均点である。

達成されている	A	概ね達成されている	B
取り組まれているが十分ではない	C	取り組みが不十分である	D

### I. 保育の計画性

内容	評価点
<b>1. 園の教育理念・教育方針の理解</b>	
・園の教育理念や教育方針を理解している	A
<b>2. 幼稚園教育要領の理解</b>	
・幼稚園の教育要領を理解していると思う	B
<b>3. 教育課程の編成</b>	
・園の教育過程をもとに保育の計画を立てている	A
<b>4. 指導計画の作成</b>	
・指導計画は教育要領、教育課程、幼児の実態などをもとに考えて作成している	A
<b>5. 教育の構成</b>	
・安全で清潔感のある環境構成をしている	B
<b>6. 保育と計画の評価・反省</b>	
・自分の保育と計画の評価・反省は行うようにしている	B

## Ⅱ.保育のあり方、幼児への対応

内容	評価点
<b>1.健康と安全の配慮</b>	
・朝の登園時は得に視診を大切にして幼児の体調が悪くないかを確認している	A
・怪我や事故には特に気をつけ、年齢に応じた適切な環境構成や言葉がけを行っている	A
・万が一、事故や怪我が発生した場合は、園長に報告し保護者に連絡をとり、医師に見てもらするなど適切な処置を行っている	A
<b>1. 幼児のみとりと理解</b>	
・一人ひとりの幼児をよく観察するように心がけている	B
・幼児の話をよく聞いたり、言葉にならない思いやサインを受け止めるようにしている	A
・見えないところで活動している幼児についてもある程度その活動の様子を推察することができる	B
・幼児同士のかかわりの姿をとらえることができる	B

## Ⅲ.教師としての資質や能力・良識・適正

内容	評価点
<b>1. 専門家としての能力・良識・義務</b>	
〔専門家としての能力〕	
・幼稚園教諭として専門知識や技能を身に付けている	B
・より高度な専門知識や技能を身に付けようと研修している	A
〔良識とマナー〕	
・保育時間外でも保育者としての誇りと自覚を持った言動を心がけている	B
・服装、髪型、身だしなみなど清潔感のあるものを心がけている	B
〔義務〕	
・職務上、知り得たプライバシーに関する情報などの秘密を守っている	A
<b>2. 組織の一員としての有り方</b>	
・教職員全員でひとつのチームであることを意識している	A
・会議や打ち合わせは時間を厳守している	A
・他の意見を素直な気持ちで聞いたり、自分の意見を述べるができる	B
・自分の意見と異なる結果となっても議論上で決定したことは協力し実行している	A
・子どものこと、クラスの出来事などで必要なことは園長や主任に報告、連絡、相談をする	A
・当番や、役割による仕事は確実にやっている	B
・上司の指示、命令には責任を持って実行している	A
・教職員のプライバシーについてもこれを他へ漏らしていない	B
<b>3. まわりを感じ取れる感性・アンテナ</b>	
・幼児や教育に関する情報をたえずとらえようとしている	B
・幼稚園や幼児のことだけでなく、自然や社会の出来事にも興味がある	B

## IV.保護者への対応

内容	評価点
<b>1. 情報の発信と受信</b>	
・クラスや子どもの様子、自分の考え方、保育のポイントなどをクラスだよりなどで知らせている	B
・電話、連絡帳などで緊急な連絡等を行っている	A
・個々の子どもの様子は直接話をしたり電話、連絡帳などを使って伝え合っている	A
・場合によっては個別に保育の様子や子どもの様子を見てもらったり保護者と話し合ったりする	B
・自分の考えをきちんと話し、保護者の話は、心を開いてよく聞く	B
<b>2. 協力と支援</b>	
・保護者からの様々な訴え要望、意見については安易に受け取ったり、断ったり無視しないで、園長や主任、学年主任等に報告や相談をしている。	B
・保護者の要望等を受け止めて実行する場合は、そのことを教育的な意義付けをはっきりさせてからにしている	B

## V.地域の自然や社会のかかわり

内容	評価点
<b>1. 地域の自然・人々のかかわり</b>	
・地域の人々と親しくあいさつや会話を交わしている	B
<b>2. 小学校との連携</b>	
・小学校の教育内容について理解しようとしている	C
・卒園した子どもの情報を得るようにしている	B
<b>3. 地域への開放と支援</b>	
・地域開放や子育て支援について具体的な形や内容を理解している	C

## VI.研修と研究

内容	評価点
<b>1. 研修・研究への意欲・態度</b>	
・研修会や研究会には自己課題をもって進んで参加している	B
・専門書や専門雑誌を読んでいる	B
・自分の保育のあり方や悩みについて他の教師や主任、園長と話し合っている	A
<b>2. 教師としての専門性に関する研修・研究</b>	
・指導とかかわりのあり方について研修・研究を行っている	B
・保育者同士の協力・連携のあり方について研修・研究を行っている	C

<b>3. 遊具・教材に関する研修・研究</b>	
・園の遊具や教材についてさまざまな利用方法について研究している	B
<b>4. 園内の環境に関する研修・研究</b>	
・園地、園庭の樹木や草花の名前、季節による変化などを理解し保育に生かしている	C
<b>5. 今日的課題に関する研修・研究</b>	
・障害のある幼児に対応する保育のあり方を学習している	A
・チーム保育について、その意義やあり方について研修・研究している	B
<b>6. 自らを高めるための学習</b>	
・趣味・人とのかかわりなどうまいのある生活を心がけている	B

#### 四. 学校評価・自己評価における総合的評価

コロナが5類になり、多くの行事は元通りに行うことが出来るようになってきた。また、新たな教育課程の編成にも取り組む中で実際の園児の姿を見つめ直し、様々なニーズのある園児に対する対応について学びを深めようと、継続的に研修を受講して相談支援にも力を入れてきたことはある一定の成果につながった。

しかし、多様なニーズを必要とする子どもたちへの対応方法については、すぐに効果が出ることは難しく、全教員が協力し合いながら同じ方向性を持って取り組むように努力をしつつも、チーム保育が十分に機能しなかったことは反省点である。

#### 五. 今後取り組むべき課題

総合評価でも記載した通り、多様なニーズを持つ園児が増えてくる中で日々、環境作りを工夫しながら実践に取り組んできた。しかし、園内の教員間の交流やお互いの業務内容を理解して共に助け合っているのかを改めて検証したところ、主体的に関わりあう園内研修の充実が不十分であったという課題が見えてきた。園内研修会を特別な研修と捉えるのではなく、日常の保育の中で感じたことを語り合い、一人ひとりの教員が自分の強み、弱さを自覚した上で互いが活きるような居場所作りの構築を目指し、やがては自分の役割をしっかりと責任を持って取り組めるようなチーム作りの第一歩を目指していきたい。

#### 六. 学校評価委員会の評価

保育の参観や給食の試食、日常の保育の写真や映像を見ていただいた。

保育を見ていただいた際には園児たちが笑顔で挨拶をして迎え入れてくれたこと、何でもないような日常の一コマの様子でも子どもたちがのびのび楽しそうに園生活を過ごしている姿を見て「日常、先生たちの子どもへの接し方がよくわかります」と温かい言葉をいただいた。また、給食の中で食育に対する取り組みとして奈良県産の野菜に触れて自分たちで下ごしらえの手伝いをするなどの姿を評価して下さった。

大学で実施した発表会を見学して頂いた際には日々の保育の延長として子どもたちの姿を見て頂き一人ひとりの園児が自信をもって発表している姿と、保護者の皆さまの協力体制についてとても高く評価していただいた。

保育室や遊具などリニューアルして明るくなった施設の様子を楽しそうに見ていただいた半面、最近の車社会の中で保護者や幼稚園に来られる方が増えている現状と、1台も止められない事も話題に上がった。